

## 平成28年度 第2回釧路市総合教育会議

日 時：平成28年11月29日（火）10：30～11：50

場 所：第2委員会室

構 成 員：蝦名市長、山口教育委員長、松尾教育委員、種村教育委員、林教育長

事 務 局：岡本総合政策部長、高木学校教育部長、高松教育指導参事、藤澤生涯学習部長、  
菅野都市経営課長、津田学校教育部次長、西村学校教育部次長、本川総括指導主事、  
山本都市経営課長補佐、鈴木総務課長補佐、青沼教育支援課長補佐、  
都市経営課企画担当 小西専門員、高橋主査、教育支援課教育支援担当 木村主査

関係資料：資料1 釧路市いじめ防止基本方針素案（案）について

資料2 基本方針策定に係る総合教育会議の意見の反映状況

資料3 基本方針策定に係る関係機関等の意見の反映状況

資料4 国のいじめ防止対策協議会における「いじめ防止対策推進法の施行状況に関する議論のとりまとめ」について

### 1. 開会

### 2. 市長挨拶

蝦名市長)

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。

はじめに、10月の釧路市長選挙におきまして、市政運営の重責を引き続き担わせていただくことになったので改めてよろしくお願ひしたい。

さて、9月30日に開催いたしました、第1回 釧路市総合教育会議において、今年度策定予定の「釧路市いじめ防止基本方針」について、皆様と協議させていただいた。

本日の会議では、前回の総合教育会議での意見等を踏まえ、事務局で整理した内容について、ご意見を頂戴することとなる。本日はよろしくお願ひしたい。

### 3. 議題

(1) 釧路市いじめ防止基本方針素案（案）について

①西村学校教育部次長より、資料1・資料2・資料3・資料4を使用し説明

<以下、意見・質問等>

山口教育委員長)

・第1回目の総合教育会議でたたき台が示され、そこで話し合われた意見や、先日開催した教育懇談会において、いじめをテーマとして話し合われた内容も、素案（案）の中に反映されており、内容が具体的に充実された。

・文部科学省から発出された国のいじめ防止対策協議会での現状も受け止めながら素案の中に反映されており完成度も高まりつつある。

・一つ意見だが、国のいじめ防止対策協議会の文書は、特に学校での取組の記載が多いと感じるが、前回の会議で、釧路市は全ての学校でいじめ防止基本方針が策定済みと報告があり、対策組織も設置済みと確認した。文部科学省の文書にある指摘内容は、釧路市の学校では当てはまらないと感じている。

・教育委員会が具体的な学校で取り組むべき姿を文章の中で表しても、いじめはどこでも起きうることを考えると、方針の策定後、学校での対応と教委での対応にタイムラグが起こらないような対応が必要になると思う。策定の過程の中で学校への情報提供や教育委員会での対応を精査し、適切な対応につながるよう努めて欲しい。

・重大な事態に発展させないためにも、学校内にある組織がしっかりと機能することが大前提である。

・文科省の指摘の中でも、学校のマネジメント力が問われるところもある。対策組織の中に学級担任、教科担任が入らなければならないと考えているが、外部からの専門家の派遣支援に頼り切りにならないような対応も是非お願いしたい。

#### 西村学校教育部次長)

・文部科学省からの有識者会議の議論の取りまとめ、学校での対応の改善等も方針策定の過程の中で連動して対応の方向性も探りながら、学校の方針の見直し等の指示をしていきたい。

・学校の対策委員会、組織について、人的支援などの部分は、北海道の委託事業を活用してスクールカウンセラーの定期的な派遣も行っているが、どういった形で充実できるか今後も検討課題と感じている。

#### 山口教育委員長)

・教育活動の中で充実しなければならないのは、学級担任と子供たちの信頼関係である。これがなければあらゆる教育活動が成立しない。

・いじめなど、様々な問題があった場合に、校内の対策委員会の担当者に関わりがシフトして、一番大切な学級担任と子供の信頼関係が奪われる。対策組織の担当者が関わっても、最後の部分は担任がやるようにしないと、子供も担任のことが心に残らなければ、なかなか教育活動として成立しない。

#### 松尾教育委員)

・文科省の通知の中で、方針を作っても、学校の教師一人ひとりに浸透していないとの記述がある。せっかくできたものを「絵に描いた餅」にしてはいけない。教職員の一人ひとりがいじめをなくすんだという気持ちであってほしい。いじめ対策委員会の先生は担当としているかもしれないが、色々な先生と子供たちが関わる必要があると思う。同じ先生だけが関わらないように。

・こういったものができた時に、読む人たちのことを考えて、ダイジェスト版の作成をお願いしたい。保護者等が中身を見て、「学校は安心できる場所だ」と思ってもらえるよう、安心してもらえるよう方針のダイジェスト版の作成をお願いしたい。

#### 西村学校教育部次長)

・市の策定後の啓発と周知について、ダイジェスト版のようなものもこれから実施の市の予算要求の協議の中でも検討させていただきたいと考えている。

・また、策定後は、ホームページへの掲載をはじめ、策定中にあっても、パブリックコメントの実施や、

学校だよりへの掲載等、保護者等への周知を図ることを予定している。

### 種村教育委員)

・文部科学省の資料4の2ページの現状と課題の部分で、「学校いじめ防止基本方針が教職員に周知されておらず、基本方針に基づく対応が徹底されていない。」という記述があり、こういう現実があるということは、先ほどの松尾委員がおっしゃっていたことと重なり、学校内で浸透させることが必要だと思ふ。

・4ページ目、「学校のいじめ対策組織が、単なるいじめの情報共有の場となっており、いじめの問題に中核的に取り組む組織として十分に機能していないケースがある。」との記述に関しては、せっかく良いものを作っても、最終的に意味のないものになってしまうことも考えられるということ。

・10ページ目、「いじめが解消に至っていないのにも関わらず、謝罪をもって解消とし、支援や見守りを終了するケースがある。」との記述について、「いじめが解消された」というのが、どの段階で解消したと認識しているのか疑問である。実際の被害者である保護者や子供が、解消されていないと思っている場合は、本当の意味での解消になっていないと思ふ。

### 西村学校教育部長)

・学校の方針及び対策委員会は、法で設置が義務付けられており、釧路市内の全学校で整備済みであるが、市の方針にあわせ、しっかりと機能が発揮できるようにしていきたい。

・いじめ解消の定義については、教育懇談会の中でも話があったが、個々の担任で解消されたというケースも、市の方針の中では、しっかりと組織として学校の対策委員会の中で協議し、いじめが解消に至ったかを判断するよう、盛り込んでいる。

### 山口教育委員長)

・文部科学省からの文書を読んで、マイナスで表記されていると感じた。教育懇談会で、学校の生の取組状況等の声を聴くことができたのだが、釧路市の小中学校のいじめに対する対応は、文部科学省の内容よりもずっと機能しているという印象を受けた。

・アセスやQ-Uをはじめ、きめ細かく子供たちの実態を捉えて、対応するための体制は釧路市は進んでいる。パーフェクトに向けて、まだ課題はあるという感覚で、学校でもしっかりと対応していることを前提とした形の中で学校への対応をお願いしていただきたい。

### 林教育長)

・資料1の2ページ いじめの定義の部分について、「発達障がいを含む障がいのある児童生徒のその特性から、いじめを受けている可能性があるという認識や相手が嫌がっているという認識が弱い場合があることを踏まえ、対応します。」という記述について、方針は市としてだが、具体論は学校に委ねられるところと考えられる。今後、学校における方針の中でも、より具体的な対応を整理検討してもらえれば、誤解だとか、本人の発達状況に応じた対応というものを全校あげて、共通理解の中できめ細やかに対応するという事は非常に大事なことだと思ふ。市の方針に連なる学校での対応について検討いただければと思ふ。

### 西村学校教育部次長)

・発達障がいの方は、国の方針ではなく、北海道の方針の中で道独自として加えられているものであり、市でも取り上げさせてもらった。学校での具体的な取組など検討する際に、市の方針を周知する際に伝えさせていただきたい。

### 蝦名市長)

・基本的には、いじめをなくしていくということで、いじめの定義、いじめとはこういうものだ、いじめはダメだということを伝えていくことが重要になっていくということ、ここは充実していくところだと思う。その上で、様々な対処が個別にできていくと認識している。

・いじめの問題、発生から認知されるまでの時間が課題になってくると思う。  
・発生の段階で、いかに食い止めるかが重要である。いじめの兆候があったときに、私でも校長でも誰でもいいので教室を見に行くとか、時間が重要となる。子供たちには「誰かが見ている」「世の中はしっかり見ている」といったことを認識させる必要がある。

### 高松教育指導参事)

・いじめがこじれる、重大事案になるケースとしては、継続性や反復性の部分が要素としては大きいと考えている。学校としては、どこかわからないところでいじめを見つけるまでの「早期発見・早期対応」の取組が対処療法の中では一番のキーワードになる。

・早期発見のために、アセスやQ-Uに関わらず、複数の先生方による見とりや、家庭からの情報提供など色々な周りが見守っている姿を見せながらできるだけ早期に対応できると、こじれないで済み、学校としては、この体制はできる限り構築している。

・ネット上のものは、事実関係をつかむのは難しいため、情報モラルの教育、家庭でも情報モラルの上でのいじめに関する認識を高めながら対処しているのが現状である。

### 山口教育委員長)

・いろんな形でアンテナを張って早期に見守ろうという努力は各学校でされている。

### 林教育長)

・教育懇談会を通じて「いじめ」をテーマに議論する中で、それぞれの会場で「いじめに対する積極的認知」を使わせていただいた。発生件数が多いからいじめが多い学校ではなくて、たくさんの認知をしているということは、様々な小さな芽を摘み取ることに学校が努めていると教育委員会も学校に対して評価する見方をする、文部科学省の「積極的な認知」もそういったことを示している。登下校を見守る地域の目も当然大事になってくる。

### 松尾教育委員)

・青陵中の「ISSY 運動」などの取組も、色々な学校でされていると思うが、良い取組を見たら書いたりしているものであり、逆に良いことばかりでなく、悪いこと、例えば誰かがいじめているとか、目安箱などの設置でいじめを見たなどの投書はあるものか。

### 高松教育指導参事)

・目安箱に「〇〇さん」がいじめられているなどの紙が入っていて、生徒会から職員室に入り、そこから事実確認をしていじめが明らかになることもある。

### 松尾教育委員)

・変な言葉だが、「チクる」ことで逆にいじめられるということもあると思う。  
・学校は学校で、子供たちにまず「いじめはしちゃいけない」ということを、地域は地域で「みんなで見守っていく」そういう土壌を作っていただければと思う。

### 高松教育指導参事)

・目安箱は、教職員というより、生徒会や児童会活動として、子供たちが主体で取り組むことが多い。

### 高木学校教育部長)

・市長が言われた学校現場での初動における対応や、親が取り組む対応について、この基本方針に工夫が必要である。家庭の対応は記載されているが、いじめが起きてからの対応となっているため、学校だけでなく、地域や家庭との連携による芽を摘んだ記載、親も早い段階で、いじめ防止に取り組むような記載が必要と感じている。

・親としては、自分の子もいじめられる、いじめるという可能性があり、いきなり先生に言うのではなく、親としての対応も記載できればと思う。

### 山口教育委員長)

・以前に、家庭に向けては「こんな兆候ありませんか?というチェックリスト」のようなものがあったような気がしたのだが。

### 高松教育指導参事)

・保護者に対し、家庭で、子供たちにこんな兆候が見られたら・・・というものはあった。傾向が見受けられたら、どんどん学校に連絡くださいというもの。

・学校側でも、年度当初に学校日より等で、学校でのいじめに対する取組などの周知に合わせ、こういった様子が見られたら学校に連絡をくださいという発信もしている。

### 種村教育委員)

・昔よく、地元とか町内会の人怒っていた。その中で、子供も「これはやっちゃいけないんだ」と自ら知っていた。今の大人は、どちらかというと傍観し、我関せずで「注意する」ということも大事だと思うが、段々すたれていっている印象である。

### 蝦名市長)

・対処療法はあるが、「世の中はしっかり見ているぞ」というところを認識させることが重要で、例えばどこかのクラスに町内会からでも良いが、そこの教室を見ていったとなれば、「このクラスに何かあるぞ?」「誰か見ている」となり、いじめをしている子供が、「まずい」と感じれば良いわけで、子供

に対しては、何かがあったら来るとした方がメッセージになる。

・先生方が色々空気を感じながら、確証を求めるのではなくて、空気がおかしいという感性に任せて良い。そこは先生方の経験にのっかって良いのではないかと思う。

・いじめをなくすことが目的。早く発見することが目的ではない。なくすということは、発見することが仕事になってはいけないということ。だから、確証を求めなくても、前段で何か動いても良いのでは。

#### 高松教育指導参事)

・いじめをなくすということで、未然防止の取組は道徳教育も含めて ISSY 運動もあるが、様々取り組んでいる。何かおかしいと感じたら、学校がアンテナを高くし、学校の中で情報共有して家庭にも伝えている。いち早く行動しており、それが対処になるのか、見守りになるのかではあるが、実際の学校の現場ではそういった対応をしている。

#### 林教育長)

・そういった意識をこの方針を通じながらしっかりアピールさせる、徹底させることが大事である。

・市長が言うとおりの、いじめを起こさないことが大事であるが、今でも「いじめは許されない」と回答しない子供も潜在しており、そこを重視して、道徳教育や家庭教育、さらには、親の責任として受け止めてもらう必要がある。

#### 山口教育委員長)

・地域全体で子供を育てている、みんなに育てられていると、子供が実感できるようにしていきたい。

#### 岡本総合政策部長)

本日いただいた意見を踏まえ、事務局にて再度整理させていただくことでよろしいか。

<異議なしの声>

次第4、その他

なし

#### 岡本総合政策部長)

では、これをもって、平成28年度 第2回 釧路市総合教育会議を終了とさせていただく。

次回の総合教育会議の開催については、皆様と調整させていただき、後日改めて事務局よりご連絡させていただきます。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして感謝申し上げます。

(了)